

莫逆の友 山本昌知君の三木賞受賞祝賀会にて 2024.11.25

山本君、三木賞受賞おめでとう。

山本君と、今日、ここに、遠路岩国から来られている三井君と、私とは、半世紀以上前の医学部の学生時代から今日にいたるまで「莫逆の友」でございます。

馬鹿の友ではありません。皆様、よくご存じのことと思いますが、山本君の名誉のために、ご説明いたします。莫逆とは漢語で、莫は砂漠の漠のサンズイを取った莫でして、「勿れ」の意味です。逆は正逆の逆です。莫逆は「逆らう勿れ」の意味で、「莫逆の友」は、きわめて親密な友ということです。

山本君と、三井君と私とが莫逆の友になりました訳は、当時医学部にあった、「予防医学研究部」というクラブに私共がいたことに依ります。

以前、岡山の県庁に大森衛生部長さんが居られました。丁度、今日、乾杯のご発声をされた大森先生のご尊父です。当時、私がどんな用事で県庁に行っていたのかは忘れたのですが、その時、医学部の大先輩の大森部長さんにお会いして、雑談をいたしていたおりに、部長さんから「予防医学研究部で久世町の結核患者の調査」をやらないかといわれ、予算を付けていただきました。久世町はいま真庭市にあります。結核は当時、国民病でした。この調査を3年間、夏休みに久世町に泊まり込みで行いました。当時、予防医学研究部は非常に活発なクラブで、

部員も 30 人ぐらいいたと思います。部員を少人数のグループにして、交代で久世に出かけました。山本君と三井君と私とがこの調査活動の中心になって苦労したことが、莫逆の友に発展した次第です。

その後、山本君は、精神科医になられて、患者さんを中心にした晴らしい医療を展開されてこられたことは、皆様すでによくご存じのことだと思います。

私は山本君と毎月一回、朝飯を食べながら、雑談を楽しんでいます。その時、しばしば、彼の携帯電話に患者さんから電話がかかります。彼が如何に患者さんに頼られているか、どれほど患者さんに寄り添った医療を展開されているかがよく分かります。

山本君、今後もお元気で、患者さんを主体にされた医療を展開されることを祈って私のお祝いのご挨拶といたします。(2024-10-19、岡山プラザホテル)